

県立高等学校教育の在り方検討委員会ブロック別懇談会 開催結果

1 実施時期

平成26年8月6日（水）～9月4日（木）の間（実施日は3実施状況参照）

2 目的及び懇談テーマ

〔目的〕

今後の県立高等学校教育の在り方について、県内各地域において各界の代表者等と意見交換を行い、県立高等学校教育の在り方検討委員会における検討の参考に資する。

〔懇談テーマ〕

- (1) 県立高等学校の現状及び各ブロックの現状について
- (2) 「今後の高等学校教育の基本的方向」の見直しにおける論点について

3 実施状況

ブロック名	ブロック内市町村名	実施日	場 所	出席者数					
				地区代表	県議会議員	地区校長等	検討委員	傍聴者(報道)	事務局
盛岡	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町	平成26年8月27日(水)	岩手産業文化センター	37	5	19	2	10	15
岩手中部	花巻市、北上市、西和賀町	8月20日(水)	花巻市民文化会館	15	4	11	2	23	15
胆江	奥州市、金ヶ崎町	8月8日(金)	奥州市水沢地区センター	10	3	9	2	7	13
両磐	一関市、平泉町	8月6日(水)	一関地区合同庁舎	10	4	7	2	14	13
気仙	大船渡市、陸前高田市、住田町	8月19日(火)	大船渡市役所	13	—	6	2	11	13
釜石・遠野	釜石市、大槌町、遠野市	9月4日(木)	釜石地区合同庁舎	13	3	7	2	4	12
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	8月11日(月)	宮古地区合同庁舎	20	1	8	2	12	13
久慈	久慈市、洋野町、野田村、普代村	8月25日(月)	久慈地区合同庁舎	20	1	6	2	7	12
二戸	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	9月3日(水)	二戸市民文化会館	19	1	6	2	9	13
計				157	22	79	18	97	119
				492					

4 各ブロックの主な意見・提言（まとめ）

- ・ 高校は地域を担う人材育成や地域振興に重要な存在であり、小規模校も一律の基準で統廃合せず、地域の状況を踏まえ存続も視野に検討すべき。
- ・ 通学可能な範囲に複数の高校が存在し、選択できることが必要であり、少子化の中でも生徒に選択されるような各校の特色を打ち出すため、高校と地域との連携を積極的に進めて行くべき。
- ・ 遠距離の通学を余儀なくされている生徒も多く、通学に対する経済的支援は実施してほしい。
- ・ 学級定員は県内一律の基準ではなく、地域の実情に合わせ検討していくべきであり、地域によっては35人学級等の設置についても検討が必要である。併せて、学級定員の見直しを国に働きかけてほしい。

その他、特別な支援を必要とする生徒増への対応、学区の見直し、多様な学科の設置、教育の質の保証等、様々な意見があった。（次頁参照）

○ 各ブロックでの主な意見、提言等

ブロック名	主な意見・提言等（項目のみ）
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土を愛する心の育成 ・ 地域に根ざした教育 ・ 生徒の学ぶ機会、学校選択の機会の保証 ・ 中高連携の重要性 ・ キャリア教育の充実のための地域、産業界との連携、人材活用 ・ 高校生の離職率を低下させるキャリア教育 ・ 新規就職者（若者）の社会への適応能力の育成 ・ 教員の資質の向上 ・ 特別な支援を必要とする生徒への対応 ・ 望ましい学校規模の考え方 ・ 地域性を考慮した高校の設置 ・ 40人以下学級の導入(1学級定員の見直し) ・ 学区外入学枠の拡大(県外入学容認) ・ 通学支援の実施 ・ 地域の産業発展につながる専門高校(学科)の在り方 ・ 総合学科高校へ工業系列の設置 ・ 職業教育の充実と技術者の育成 ・ 地域の高等教育機関としての高校の在り方
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸部は震災の影響を考慮し慎重な検討を ・ 生徒の学ぶ機会、学校選択の機会の保証 ・ 新規就職者（若者）の社会への適応能力の育成 ・ 特別な支援を必要とする生徒への対応 ・ 多様な生徒への対応 ・ 地域性を考慮した高校の設置(在り方) ・ 40人以下学級の導入(1学級定員の見直し) ・ 通学支援の実施 ・ まちづくりと関連した高校再編の在り方
胆江	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業が求める人材育成 ・ 教員の資質能力の向上 ・ 生徒が通学可能な範囲に選択が可能となる数の高校配置 ・ 普通高校の特色化 ・ 魅力ある小規模校の在り方 ・ 地域性を考慮した高校の設置 ・ 通学支援の実施 ・ ものづくりを学ぶ環境の整備 ・ 総合学科高校の成果と課題の検証 ・ 中学生や高校生からの再編への意見聴取 ・ 教員が地域理解を深めるための研修の実施 ・ 再編に向けた丁寧な説明による地域との合意形成
両磐	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復興を担う人材育成 ・ 生徒の学ぶ機会、学校選択の機会の保証 ・ 小中学校との連携強化 ・ キャリア教育の充実のための地域、産業界との連携(地域の人材活用) ・ 教員の地域理解 ・ 新規就職者(若者)の社会への適応能力の育成 ・ 特別な支援を必要とする生徒への対応 ・ 魅力ある学校づくり ・ 40人以下学級の導入(1学級定員の見直し) ・ 学区の見直し(拡大) ・ 地域産業と関連した学校教育の在り方 ・ 総合学科高校の十分な検証 ・ 国際的に活躍できる人材を育成する学校の設置 ・ 継続性のある学校経営の展開
気仙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に貢献し、地域を担う人材育成 ・ 教育の質の維持 ・ 教員の授業派遣等による中高連携の強化 ・ キャリア教育の充実のための地域、産業界との連携(キャリア教育に地域人材活用) ・ 自治体と連携した魅力ある学校づくり(特に小規模校) ・ 学科等のバランスのとれた高校配置 ・ 地域性を考慮した高校の設置(在り方) ・ 40人以下学級の導入(1学級定員の見直し) ・ 通学支援の実施 ・ 10年先を見据えた専門学科の在り方検討 ・ 復興に対応する専門教育の充実 ・ 中高一貫教育校の拡大
釜石・遠野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の地域貢献意識の向上 ・ 生徒の学ぶ機会、学校選択の機会の保証 ・ キャリア教育の充実のための地域、産業界との連携 ・ 特別な支援を必要とする生徒への対応 ・ 中途退学者への対応 ・ 高校集約による拠点化と説得力のあるビジョン提示 ・ 40人以下学級の導入(1学級定員の見直し) ・ 多様な学科(水産、外国語)の設置 ・ 工業系専攻科の設置 ・ 中高一貫校で育成する人材を明確に ・ 内陸と沿岸の学習機会の格差の是正 ・ 教育内容の充実
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に貢献し、地域を担う人材育成 ・ 生徒の学ぶ機会、学校選択の機会の保証 ・ キャリア教育の充実のための地域、産業界との連携 ・ 高校生の離職率の低下に向けたキャリア教育の充実 ・ 特別な支援を必要とする生徒への対応 ・ 現状の高校の維持 ・ 地域性を考慮した高校の設置(在り方) ・ 自治体と連携した魅力ある学校づくり(特に小規模校) ・ 学区の拡大 ・ 40人以下学級の導入(1学級定員の見直し) ・ 通学支援の実施 ・ 農業、福祉系の学科配置の検討 ・ 教育環境の整備 ・ 内陸部と沿岸県北の教育の機会均等
久慈	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に貢献し、地域を担う人材育成 ・ 生徒の学ぶ機会、学校選択の機会の保証 ・ 新規就職者(若者)の社会への適応能力の育成 ・ 専門高校から高等教育機関への進学ルート確保 ・ 教員の資質能力の向上と適正配置 ・ 地域性を考慮した高校の設置(在り方) ・ 自治体と連携した魅力ある学校づくり(特に小規模校) ・ 40人以下学級の導入(1学級定員の見直し) ・ 県外入学の容認 ・ 通学や下宿経費への支援 ・ 特色ある学科(林業、水産、福祉、外国語)の設置
二戸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に貢献し、地域を担う人材育成 ・ 生徒の学ぶ機会、学校選択の機会の保証 ・ 特別支援学校高等部の設置 ・ 自治体と連携した魅力ある学校づくり(特に小規模校) ・ 地域の拠点校の充実 ・ 現状の高校の維持 ・ 望ましい学校規模の考え方の見直し ・ ICTの活用 ・ 40人以下学級の導入(1学級定員の見直し) ・ 学区の見直し(隣接協定の変更) ・ 通学支援の実施 ・ 多様な学科の配置 ・ 総合学科高校の学校規模の維持 ・ 食品関連学科の設置 ・ 中高一貫校の充実

ブロック別懇談会の記録 (主な意見等の要旨)

※ この資料は、ブロック別懇談会における主な意見について、「今後の高等学校教育の基本的方向」の構成に沿って、論点毎に意見を整理したものです。

第1章 岩手の高校教育の状況

1 岩手の高校教育の状況

(論点1) 東日本大震災津波による被災の状況及び影響等

2 岩手の高校教育が目指すもの

(1) 高校教育の目的と人財育成の視点

(論点2) 復興に向けた人財育成

(2) 高校教育の質と機会の保証

第2章 今後の高校教育の充実

1 義務教育から高校教育への円滑な接続

(論点3) 義務教育との連携及びキャリア教育の充実に向けた取組

2 高校教育の充実

(1) 教育内容の充実

(2) 教員の資質・能力の向上

(3) 学校経営等の充実

(論点4) 特別な支援を必要とする生徒増への対応の方向性

第3章 学びの環境整備

1 今後の環境整備の考え方

(1) 学級定員及び学校の規模

(論点5) 1学級の定員

(論点6) 望ましい学校規模

(論点7) 小規模校への対応

(2) 教育機会の保証

(論点8) 学区の在り方

(論点9) 統合した場合の通学に対する支援に向けた方策

(3) 地域や産業界との連携

2 学校(学科)の配置

(論点10) 就職の割合が高い普通高校の在り方

(論点11) 復興と関連した工業系学科の在り方

(論点12) 復興と関連した水産系学科の在り方

(論点13) 総合学科の在り方

○ その他

第1章 高校教育の目指す姿

1 岩手の高校教育の状況

(論点1) 東日本大震災津波による被災の状況及び影響等

(論点2) 復興に向けた人財育成

ブロック	意見等
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> 郷土を愛する心、人を思いやる心を育てて欲しい。(行政) 地元のリーダー、将来のリーダーを育てる視点をもって検討して欲しい。(PTA) 復興教育を通じ、沿岸地域の中学生は、地元に残り地元のために働きたいと考えている生徒が多い。統廃合により、地元の高校に入学したい生徒の気持ちをくじくことのないように考えて欲しい。(PTA)
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸部について、震災からの復興が叫ばれる中で、統合等を考えるのは速すぎるのではないか。(行政)
胆江	<ul style="list-style-type: none"> グローバル人材育成については、具体的にどのレベルまで取り組むかはっきりさせ、行政と学校現場とが乖離しないように取り組んでいくことが必要である。(行政)
両磐	<ul style="list-style-type: none"> 国際的に活躍する人財の育成のため専門性のある学校が必要ではないか。(PTA) 若者が地元に着定できるための雇用の確保が必要であり、若者を育てるための高校教育の在り方を考えることが大切である。(行政) 復興を担う人財の育成は重要な観点である。(PTA)
気仙	<ul style="list-style-type: none"> 少子化が進む中で望ましい学校規模で統合が進んでいると評価されているが、再度、再編となるとどうか。震災もあり、街づくりの担い手となる人材の育成は重要な位置づけになる。地域事情も含めながら、今の設置校の維持・発展に努めてほしい。(農林水産)
釜石 ・ 遠野	<ul style="list-style-type: none"> 震災後、子ども達は変わった。地域に対する子ども達の思いに、どのようにアプローチしていくのかという視点があってもいい。(行政) 震災後、中学生が海外に出かける体験をしているが、話を聞くとわずかの間に精神的な成長が見られる。日本の教育と海外の教育との違いがあり、ディスカッションを主体的に取り入れていると聞く。このことにより、子ども達の能力をもっと伸ばすことができるのではないか。他に依存せず、自ら考え主体的に行動することができる子どもを育てるために、教育の内容をよく検討するべきだ。(行政)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の教育を行政がどう支えていくのか。人口減少が進行する中で高校再編について、「人づくり」であるということを考え、特長のある産業再生や産業、雇用に寄与する人づくりなど挑戦的なものであって欲しい。(行政) 震災以降、親の都合等で子ども達の流出は明らかである。地域の現状を踏まえた教育の在り方を考えて欲しい。(PTA) 復興教育について、小中学校で取り組んだことが、高校に進学して実現できるようにして欲しい。(教育)
久慈	<ul style="list-style-type: none"> 若い技術者が少なく、ものづくりの技術が継承されていくか不安である。(行政)
二戸	

注) 意見の後の()内は発言者を記載したものである。

行政：市町村長等 農林水産：農林水産業関係者 商工：商工業関係者

PTA：PTA代表者 教育：市町村教育委員会教育長

第1章 高校教育の目指す姿

2 岩手の高校教育が目指すもの

(1) 高校教育の目的と人財育成の視点

(2) 高校教育の質と機会の保証

ブロック	意見等
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> 高校の現状と課題について、「高校進学が奪われた状況になっていない」と記載されている。しかし、そのために保護者の経済的負担等が大きくなり厳しい状況にあるのが現状である。再編等によって経済的負担を強いられるような場合の支援をお願いしたい。(行政)
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校の在り方について、子どもたちが高校で学ぶ機会を与えられることを前提とするべきである。(行政) 教育を受ける上で、地域格差があってはならない。(商工) 学校がなくなると生活エリアが変わってくる。学校は地域の基盤である。生まれ育った地域を愛することで地域に貢献できる人財となる。それを教えるのが学校の役割である。(PTA)
胆江	
両磐	<ul style="list-style-type: none"> I L Cと関連し、インターナショナルスクールの設置はどのように進んでいるのか。(行政) インターナショナルスクールについて、宮城県を取り込む形で進めていく必要があるのではないか。インターナショナルスクールを打ち出すのも良いが、既存のスキームで人材育成をはかることが有効ではないか。(行政) 地域を愛する人材育成のためには、高校だけでなく、小中学校との連携が必要である。(PTA)
気仙	<ul style="list-style-type: none"> 震災により、復興の役に立ちたいといった明確な目標をもつ子どもが増えている。子どもの将来の夢をかなえられるよう、自宅から通学できる環境でお願いしたい。教育の質の維持をお願いしたい。(PTA) 地域の元気は、子どもから、学校から生まれる。どういった子どもを育てていかなければならないのかを合わせて考えていくことが必要ではないか。中山間地のリーダーを育てることが必要であり、そのためにも、地域には高校が必要ではないか。(教育)
釜石・遠野	<ul style="list-style-type: none"> 子どもは部活動や学力等で高校を選ぶが、保護者は地元の高校に進学し、地域の将来を担って欲しいと考える。高校を減らすことなく、子ども達が負担なく通学できて高校教育を受けることのできる環境を望んでいる。(PTA)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> 復興途上で、なりわいが地についていないことから、経済的な面からも通学しやすいところに学校があることが重要。(行政)
久慈	<ul style="list-style-type: none"> 久慈市は医師の確保に苦労している。医師や教員等となる人材を育てるためには、中核となる普通高校のレベルアップに力を入れていかなければならない。そのために、能力の高い教員の配置をお願いしたい。(行政) 水産、福祉分野で即戦力となる人材の育成が必要ではないか。(行政) 子どもの数が減っているから学級減といった、統計的な説明であるが、教育は統計(数字)ではかかれるものではない。地域を担う人材の育成という観点での議論が必要である。(行政) 大学等に進学した子どもたちが、地元に戻り貢献できるような人材を育てる教育を進めて欲しい。(行政) 地域を支えていくという観点から、高校教育の在り方について考えて欲しい。(商工) 生徒、保護者の夢と希望をかなえられる学校、社会に役立つ人材の育成ができる学校、地元で夢をかなえられる学校は必要である。(教育、PTA)
二戸	<ul style="list-style-type: none"> 国際化が進んでいることは理解できるが、その中であって地域のよさや地域の文化にも目を向けるようなことも大切だと考えている。(農林水産) 地域に残り、将来の担い手となる人材を育てるような教育が必要である。(農林水産、商工) 地域との交流、第三者機関を利用し、魅力ある教育を実践することが必要である。(商工) 高校教育の機会と質をどう保証するのか。機会と質を保証するための予算を確保する覚悟が県教委には必要。(教育)

第2章 今後の高校教育の充実

1 義務教育から高校教育への円滑な接続

(論点3)義務教育との連携及びキャリア教育の充実に向けた取組

ブロック	意見等
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職する生徒について、高校卒業後3年目までの離職率が5割と聞く。希望と現実の違いが離職の原因となっているのであれば、次のことを考えることができる。しかし、何をやっていいか分からないがとりあえず就職したというミスマッチは、次の就職ということが難しい。人生の第一ステージとも言える時に、挫折をあじわうことは将来の不安となる。希望をもって生きていくためのケアをお願いしたい。(行政) ・ キャリア教育について、産業界との連携が大事である。(行政) ・ 業種の多様化が進んでおり、対応できるような人材を地域と連携して育てていく考えが必要である。(商工) ・ 地域の人材をもっと積極的に受け入れる環境を作って欲しい。(PTA) ・ 中高の連携をさらに進めて欲しい。高校教育は義務教育の基礎の上に成り立つものである。これを踏まえ小中高の教員、保護者、子どもが様々な連携をしていかなければならない。(PTA)
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校を卒業し、社会人として働く最近の若者は心が弱く、立ち直りきれないなど、社会への適応能力が低い。社会人として適応できる能力の育成を望んでいる。(農林水産) ・ 高校生の地元就職指向が強いと聞いている。しかし、資料にあるとおり、実際には県外への就職率が高い。事務職、福祉関係については、高校の教育課程の中で学ぶことのできるような工夫が必要と考える。(商工) ・ キャリア教育について、小中高それぞれの発達段階で取り組むべき意味合い(何を身につけるべきか)が違ふと考える。10年後を見据えた教育を考える必要がある。(PTA)
胆江	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の子ども達は企業が求める人材にはなっていない。学校で社会参加をさせ、体験を通して社会人として必要なコミュニケーション能力等を身に付けさせていくことが必要である。(行政、農林水産) ・ 進路を担当する先生方に地域の産業や企業の実態について、研修する機会を設け、生徒の進路指導に役立ててほしい。(行政) ・ 地元で就職し、地域貢献するためにも、ものづくりの技術や基礎知識を学べる環境の整備が必要ではないか。(行政)
両磐	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少が進む中で、キーワードは「地域社会」と考える。キャリア教育等、学校だけで取組ことには限界がある。地域社会の協力が不可欠である。(行政) ・ グリーンツーリズムに参加する県外の若い人たちの目は輝いている。しかし、地元の中学生の農業に対する関心が薄い。学校教育の在り方の問題ではないか。もっと、地域の産業の中心でもある農業に関心をもつような学習の在り方が必要ではないか。(農林水産)
気仙	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育において震災によって縁のできた企業、地元企業との連携を図り、多様な職業観を得られないだろうか。(行政) ・ 地元企業からは、資格をもった人を育ててほしいと言われるが、学校と地元企業のミスマッチがあるのではないか。地元で貢献できる人材を地元で作っていく環境づくりをお願いしたい。(PTA) ・ 中高の教員の交流等、教える側の連携について積極的に推進してはどうか。(教育) ・ 就職して3年以内に、5割が離職する現実について、どう評価するのか。キャリア教育の検証も大切ではないか。(教育) ・ 高校からの就職者の離職率が高いこと等の課題を解決するために、地域と一体となった特色ある学校の取組が効果的ではないか。(教育)

ブロック	意見等
釜石 遠野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特性をいかしてキャリア教育を推進し、高校生の希望を伸ばしてあげることが大切である。(農林水産) ・ 教員の質について、ただ学力を上げるだけの教育ではなく、将来どう生きていけばよいのかを指導することが大切ではないか。(PTA) ・ キャリア教育が推進され、県内外の子ども達の交流が盛んになり様々な経験をする中で、子ども達の進路選択の尺度が広く確実になっていると感じていた。その中で、中途退学者が多いことは残念なことである。中途退学した子ども達のその後について、どのようになっているのか。(教育)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的意識を持たせる教育が必要である。キャリア教育については、普通科も含めてすべての高校で取組み、産学官が連携することが望ましい。(商工) ・ ボランティア活動や地域のイベント等に参加することで、子どもたちの社会性が身につくと思う。また、地域の活性化にもつながる。(商工) ・ 高校生の離職率について、県内外あるいは管内の状況がどのようになっているのか知りたい。コミュニケーション能力が不足しているのではないか。(商工) ・ 宮古市にある工業、水産、商業、普通科の高校と短期大学との連携の在り方についても検討が必要である。(教育) ・ 地域の人材を活用した授業の取組が必要である。(教育)
久慈	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校の教員だけが教えるのではなく、専門学科であれば、その道の専門家をアドバイザーとして迎える等の工夫があってもいいのではないか。(農林水産) ・ 企業は子どもたちに、あいさつや忍耐力といった基本的社会性を求めている。自立した社会人としての人材の育成は大事である。(商工) ・ 高校卒業後3年で5割が離職する現状にある。その原因はどこにあるのか。(教育) ・ 専門学科を卒業した生徒が、専門性を活かして高等教育機関に進学できる仕組みを作って欲しい。(教育)
二戸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校での学習だけでなく、地域の産業や様々な仕事について理解できるような体験をさせることはできないのか。(農林水産) ・ 高校はもっと現場との結びつきを強めてもらいたい。知識だけでなく、現場体験を通じた学びが必要である。(農林水産)

第2章 今後の高校教育の充実

2 高校教育の充実

- (1) 教育内容の充実
- (2) 教員の資質・能力の向上
- (3) 学校経営等の充実

(論点4) 特別な支援を必要とする生徒増への対応の方向性

ブロック	意見等
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数は減少しているが、その中で特別な支援が必要な生徒は増えている。そして、高校への進学を目指している。その対応、支援にどのように取り組んでいるのか。(教育)
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> 中途退学者、不登校生徒について、受け入れ方や育て方が大きな問題である。支援等をもっと拡大していいのではないか。(教育)
胆江	
両磐	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な生徒が増加する中で、高校における特別教育支援員の増員をお願いしたい。(教育)
気仙	
釜石 遠野	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする生徒が増加している。その子ども達が、身近に高校教育を受けることのできる環境を整えてもらいたい。(教育)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な生徒への対応について、小中学校の教員から学ぶことがたくさんある。小中高が連携できることが望ましい。(教育)
久慈	
二戸	

第3章 学びの環境整備

1 今後の環境整備の考え方

(1) 学級定員及び学校の規模

(論点5) 1学級の定員

(論点6) 望ましい学校規模

(論点7) 小規模校への対応

ブロック	意見等
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 望ましい学級規模を4～6学級に固執して検討するのか。(行政) ・ まちづくりには教育と医療は大事である。高校の在り方について、通学の利便性や進学・就職の実績等を見て判断して欲しい。(行政) ・ 1学級40人定員について、検討が必要ではないか。(行政) ・ 地元の高校がなくなると、地域経済への影響が大きい。数字だけで在り方を考えていくことには、納得できない。生徒数が少ないから切り捨てる、小さな町だから高校がなくなってもいいということではない。(商工) ・ 人生においては考える力、行動する力が必要であり、子どもにとって、教員との関わりと同時に切磋琢磨できるライバルが必要である。その切磋琢磨できる規模をどの程度と考えるのかという視点が大事である。(PTA) ・ 小規模校のみの再編だけでなく、進学校を集めて統合(例えば、盛一・盛二・盛三)する等も一つの方法ではないか。(PTA)
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校標準法の学級規模に関する内容が削除されていることから、平成22年の「基本的方向」における学校規模の考えを適用しないことを明らかにするべきだ。(行政) ・ 学級定員について、どういった場合に40人未満が認められるのか。また、沿岸被災地については、特殊事情があるということで認めてもらうことができるのか。また、国への働きかけが可能なのか。(行政、教育) ・ 人を育てるうえで、数値のみで捉えるのは危険である。高校進学を失うことのないように、地域性に配慮した検討をお願いしたい。(行政、農林水産、教育) ・ 企業は、コミュニケーション能力の高い生徒を人材として望んでいる。道徳などのモラルを持ち、打たれ強くなるよう、できるだけ多くの友達と切磋琢磨できるような環境を整える配慮をして欲しい。(商工) ・ 1学級35人定員を考えてはどうか。小規模校への対応として、地域の連携がかかせない。(農林水産) ・ 不登校、発達障がいをもちながら、特別支援学校ではなく普通学級で学んでいる生徒がたくさんいる。そのような子どもたちを受け入れて個別に対応している小規模校があるということに注目して欲しい。(PTA) ・ 望ましい学校規模について、現実的問題として沿線と沿岸、県北地域、中山間地では大きなハンデがある。「まちづくり」は「人づくり」という観点から、岩手型コミュニティースクール高校版を大胆に開発するべきだ。(教育)
胆江	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校標準法が変わり、学校規模については柔軟に対応できるようになったが、高校は多様な能力や適性を伸ばす場であるので、そのことを十分に考慮し検討を進めてほしい。(教育) ・ 県では、平均的な高校を作ろうとしているのか。1学級校であっても、世界で活躍できる優れた人材を育成する学校があっても良いのではないか。見直しを機会にそういった方向性を示すことも必要。(教育)

ブロック	意見等
両 磐	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校は統廃合が進んでいる。高校もある程度は仕方がないと考える。しかし、将来を担う子どもたちに高校の選択肢があり、専門性を深く学び多彩な教育ができるような、さらには、小規模校も維持しつつの統廃合であって欲しい。(行政) ・ 学校は地域文化の中心であり、入学生が減少し学級数が少なくなったり、廃校となると、地域が荒廃する。1学級40人定員の見直しも必要ではないか。(農林水産) ・ 高校の教員が複数校の授業を担当する兼務はできないのか。(商工) ・ 部活動の選択肢が少ない学校は敬遠される。合同チームの検討も必要ではないか。(教育)
気 仙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の40人学級の見直しや、学級の枠を取り払った選択制(少人数教育や選択コース制等)の検討が必要ではないか。(行政) ・ 切磋琢磨のための適正規模が必要という考えや、丁寧な教育ができる小規模校のメリットも理解できる。再編については、住民に対する丁寧な説明と、学校がなくなった地域に対するケアも必要である。(農林水産) ・ 学級編成を一律に考えていくのは現実的ではない。30人学級、20人学級で効果を上げることがいいのではないか。国に働きかけていく必要がある。(教育) ・ 被災地はかなりのダメージを受けている。出生数の減少も進んでいる。若い人が根付かなければ少子化は進む。地域によって、学級定数を柔軟にできないものか。(教育)
釜 石 ・ 遠 野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数学校のメリットを考え、1学級定員の見直しが必要である。(行政) ・ 地元の子供達を受け入れるだけの高校の定員を維持していただきたい。(PTA) ・ 子ども達は本物を求めている。高校は受験のためではない、本物の高等教育を子ども達に与えるための環境づくりに取り組んでいく必要がある。(教育) ・ 現在を見極めた中で、将来の方向性を考えていく必要がある。高校の配置について、沿線ぞいにだけ集中させることのないように配慮して欲しい。高校の在り方については、内陸と沿岸の格差是正が論点になるのではないか。(教育)
宮 古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校は地域づくりの核となっている。各市町村に1校は教育機関(高校)が必要である。(農林水産) ・ 1学級の定員40名について、今の時代に適応したものであるのか。県内一律の基準で行うのではなく、地域の特性に任せてやった方がよいのではないか。(商工) ・ 小規模校の存続については、自治体・地域・学校が三位一体となって支えていかなければならないと考える。地域の特性を生かした教育を、ある程度地域にまかせるという考えも必要ではないか。(商工)
久 慈	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学級40人の定員について、教育委員会として制度改正にしっかり取り組んで欲しい。(行政) ・ 小規模校での個別の指導により力を発揮する生徒もいる。教育という枠の中だけではなく、地域として子どもを育てるということも考えることも必要である。(行政) ・ 小規模校であっても特色ある学校の存続は、まちづくりに直結する。地域に対して十分な説明を行うなかで、今後の高校教育の在り方に対する取組をお願いしたい。(行政) ・ 適正な学校運営のためには、ある程度の学級規模が必要であることは理解する。しかし、子どもたちの選択肢が狭められるようなことは避けて欲しい。(商工) ・ 大きな集団の中で切磋琢磨し自己研鑽を積むことは大切である。しかし、小規模校であってもきめ細やかな指導により、有為な人材を育てていることを頼もしく思う。学級規模の大小かかわらず、それぞれの長所をいかした高校教育をお願いしたい。(教育) ・ 小規模校の在り方に焦点を当て、部活動や教科指導の在り方なども評価してほしい。(教育) ・ 再編について、総合的に判断するといった姿勢(8月1日岩手日報記事より)について、可能な限り今ある高校を存続して欲しい。(教育)

ブロック	意見等
二戸	<ul style="list-style-type: none"> • 小規模校であっても若者が地域に定着し、地域の生業を維持できる高校の在り方を検討していただきたい。(行政、農林水産) • 1学級の定員を30人等とし、学校を維持し競争心を育てることも大事である。(商工、PTA) • ギリギリまで存続してほしいと考えているが、その基準についての県の考えを示してほしい。(PTA) • 地域の実情を踏まえて少人数学級の導入、教員の兼務発令等、個別の対応をお願いしたい。(教育) • 望ましい学校規模の明確な考え方を示すべきだ。「望ましい学校規模に満たない小規模校」という表現はいかがなものか。(教育) • 1学級定員について、都市部と町村部を一律に考えるのではなく二つに分けて考え、生徒の実態に応じたきめ細かな指導ができるようにしてほしい。(教育) • 岩手県独自の復興教育、特色ある高校づくりのための教員配置について国に要望していくべきだ。今こそ、子どもたちに投資するべきだ。(教育)

第3章 学びの環境整備

1 今後の環境整備の考え方

(2) 教育機会の保証

(論点8) 学区の在り方

(論点9) 統合した場合の通学に対する支援に向けた方策

ブロック	意見等
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの地域にある高校は、地域との連携を第一に考えるべきである。(行政) ぎりぎりまで残すのではなく、岩手の隅々まで高校がある状況にならないと、進学したくてもそれができないということになるのではないか。(農林水産、教育) 地元の高校は、地域にとって必要である。生徒の地元への就職指向が強い。インターシップ等を通じて地元への就職率が高くなっている。地元企業に若い人材を雇用できることは地元企業の発展にも結びつく。(商工) 人口減少に歯止めをかけるためにも、教育界、産業界の連携が必要である。(商工) 学区について、学区外から3学年で25名もいるなど、岩泉や久慈に隣接しているという学校の地理的実態にあわせた学区という柔軟な対応をして欲しい。(教育)
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> 通学支援について、通学バスがあれば学ぶ機会が与えられることになるかというところではない。(行政)
胆江	<ul style="list-style-type: none"> 通学できる範囲に多様なタイプの学校を配置し、生徒が選択できるようにしてもらいたい。(行政) 普通高校であっても、高校の特色を示し中学生や保護者にアピールしていくことが必要。(行政) 再編が進んだ場合、沿線の比較的交通手段が便利なところはよいが、沿岸部等では通学に対する支援がより重要になってくると思う。(行政) JRの駅からの学校までの送迎など、通学に対する支援の具体的な方向性を示していただきたい。(PTA)
両磐	<ul style="list-style-type: none"> 学校を統合する場合、通学支援等何らかのケアは必要である。(行政) 普通科の学区について、柔軟な対応が必要ではないか。(PTA)
気仙	<ul style="list-style-type: none"> 魅力のある町にするには高校の存在は大きい。公共交通機関が少ない地域では、県が先頭に立って充実する方向で取り組んでもらいたい。(行政) 通学支援について、市町村との相談とあるが、県の考えを早めに示してほしい。(行政) 学校を統合する場合、通学支援等何らかのケアは必要である。(商工)
釜石 遠野	<ul style="list-style-type: none"> 遠くから入学してくる生徒に対して、下宿を格安料金で提供するといったことを考えれば、経済的な負担を軽減できるのではないか。(商工)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> 宮古地区は学区が広く、6クラス規模の学校はほとんどない。学校が集積されると通学の負担が大きくなるので、そこに配慮した再編をお願いしたい。(商工) バスで通学が1時間かかり、子どもの勉強時間や部活動への制約、親の負担が大きい現状に配慮してほしい。(PTA)
久慈	<ul style="list-style-type: none"> 魅力のある学科をつくることも大切であるが、遠くから入学を希望する生徒にとっては、経済的な負担が大きい。寮をつくることは難しいかもしれないが、通学支援や下宿補助等、自治体と一緒に検討していくことはできないだろうか。(行政) 種市高校の海洋開発科のような特色のある学科に県外からも入学できるように、制度の見直しをお願いしたい。(教育)
二戸	<ul style="list-style-type: none"> 現在のブロック内5校の統廃合を進める場合、通学手段、通学費の負担が大きくなる。配慮をお願いしたい。(行政、PTA) 公共交通機関の有無にかかわらず、通学のための支援をお願いしたい。(教育) 二戸町は青森県との隣接協定から外れている。この点も見直していただきたい。(教育)

第3章 学びの環境整備

2 学校(学科)の配置

(論点10) 就職の割合が高い普通高校の在り方 (論点11) 復興と関連した工業系学科の在り方

(論点12) 復興と関連した水産系学科の在り方 (論点13) 総合学科の在り方

ブロック	意見等
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学科の在り方が、地域のニーズに対応しているのか。その在り方を見直すべきである。(行政) 専門高校については、地域の産業につながる学科を設置し、通学支援、下宿(寮)の支援をするといった、大胆な考えが必要ではないか。(行政) 技術者を育てないで発展はない。土木・建築科が県内の工業高校に少ないため、専門知識を持った高校生がいない。普通高校の生徒は仕事を継続できず辞めてしまう。専門科目を学び、プロ意識を持った生徒が社会には必要である。(商工) 盛岡工の電子情報、土木などは北上周辺の工業集積や復興需要等で受検者が多くなっている。今のニーズにあった学科、定員を設定する等、素早く取り組んで欲しい。(PTA) 専門高校における職業教育にさらに力を入れて欲しい。(教育) 総合学科高校に工業系を設置する等、柔軟なコースの設置を考えてはどうか。(教育)
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> 学校の規模や生徒数等に応じた高校の配置については重要な論点である。(行政) 「基本的方向」では、専門学科として林業にふれられていない。地域には豊富な森林資源があるが、それを活用するための技術者が必要であり、その育成も考えてほしい。(商工)
胆江	<ul style="list-style-type: none"> 「今後の高等学校教育の基本的方向」では、地域の産業構造や地域特性に留意しながら配置を検討するとあるが、今後も同様の視点で検討を願いたい。(行政) 総合学科高校の成果と課題を教えてほしい。(商工) 中学生の進路希望もある程度考慮して、学科の配置を検討することも必要ではないか。(教育)
両磐	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県の再編を見ると、特色ある学科を設置する動きがある。本県の総合学科に対する総括はどうなっているのか。(教育)
気仙	<ul style="list-style-type: none"> 神戸の例を見ると、建設業が栄えたのは3年でその後、倒産が発生している。土木や建築は現在、人手不足ではあるが10年先、一生勤めあげること考えた場合に、土木科、建築科などの専門学科は今必要だが、もっと先を見通して学科を考えていく必要があるのではないか。(商工) 復興に対応した専門教育の充実が必要である。建築・土木の学科を設けてはどうか。(行政) 地元には建築科がないため、他の地域に進学している。専門学科を増やせないものか。(PTA) 気仙地区の高校の在り方を考える上で大切なことは、内陸部に対抗できる進学校、一人一人の生徒に丁寧に対応できる小規模校、そして専門高校とバランスのとれた配置が必要だと考える。また、総合的な専門学科をどう維持するかが大切である。(教育) 住田町では10年以上前から中高一貫教育を提案している。中学校にもよい先生がいるのだから、マンパワーを生かして地域の教育を盛り上げることはできないか。(行政) 中高一貫教育について、一関一高だけではなく全国の500を超えるケースをもとに評価してもらいたい。(行政) 中高一貫教育を提言しているが進展していない。住田町では森林教育、英語教育について、保育園(幼稚園)から高校まで継続して実践しており、高校は町の将来の一翼を担うものである。起業に関わる人材育成も必要。(商工)

ブロック	意見等
釜石・遠野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釜石市は「ものづくりのまち」である。釜石商工高校にもものづくりの専攻科を設置して欲しい。(行政) ・ 確かな心を育み、将来を担う子どもを育成するために、小中一貫を進めている。これが高校までつながるような教育が必要である。(行政) ・ 中高一貫校という県と市町村がコラボしたものを既に始めている。これを事例としながら地域の高校を守ることはできないのか。(行政) ・ 外国語を学ぶことができる学科等、特色ある学科の設置が必要ではないか。(農林水産) ・ 大槌高校に水産系学科を設置すれば、全国から入学を希望する生徒が集まるのではないか。(商工) ・ 中高一貫校について、どんな子どもにしたいから中高一貫にするのかという点について弱い。学ぶ意欲を満足させるための中高一貫でなければならない。(教育) ・ 多様な価値観を育てる学科・コースの設置が必要である。(教育)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化に対応した福祉の人材育成など、総合学科高校(福祉コース設置)の構想があってもいいのではないか。(農林水産) ・ 学科のバランスと子ども達ができるだけ選択できる高校の配置をお願いしたい。(農林水産) ・ 高校を義務教育と考えて、併設型中高一貫校の設置を検討する必要があるのではないか。(農林水産) ・ 統廃合は仕方ないという意見がPTAでは多い。都市部の学校や魅力的な学科をもつ学校は定員をオーバーしている。高校再編はやむを得ないが、地域のニーズ、産業とマッチした学科の配置を望みたい。(PTA) ・ この地域には、宮古水産があるが、そこには農業系の学科がないので、酪農体験等ができない。農業系の学科が欲しい。(PTA) ・ 総合学科の状況についてききたい。(教育)
久慈	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然を大切にし、自然の中で仕事ができる人材を育成できる学科が必要である。林業について学ぶことができる学科等、特長のある学科の設置をお願いしたい。(行政) ・ 観光立国というが、日本では英語を勉強することが外国語の勉強だと思っている。もっと他の外国語を学べるような学科をつくることも考えていいのではないか。(農林水産) ・ 農業後継者を育成する場合、農業の基本だけでなく六次産業化から農業経営までを結びつける一貫した教育が必要ではないか。(農林水産) ・ 子どもたちが入学を希望するような、特長のある学科が必要である。(農林水産) ・ 専門学科の高校について、技術を残す、地域をいかすということを考えてもらいたい。(商工) ・ 久慈地域は、子どもたちがいる程度、専門学科・コース(農業、家庭、水産、工業等)を選択できる環境にある。極力、現在の高校を残して欲しい。(教育)
二戸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の食産業振興のための人材育成が必要と考えている。そのためには、基礎知識を持つ即戦力が必要である。若者を地元に着させるためにも、食品関連学科の設置をお願いしたい。(行政) ・ 中高一貫のモデル校に指定すること等を検討いただき、この制度の継続・充実をお願いしたい。(行政) ・ 中高一貫校、総合学科高校以外の多様な高校の在り方を検討願いたい。(行政) ・ 工業系学科・水産系学科については論点としているが、農業系学科についても論点として検討して欲しい。(農林水産) ・ それぞれの地域にはどんなタイプの高校が必要なのか。それを考えることが、子どもたちの要望に応えることになる。(教育) ・ 総合学科は、生徒数が減ると教員数が減るため、生徒が望んだ系列(コース)が設置できないということがある。学級減を進めることの問題点となる。(教育)

○ その他

ブロック	意見等
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> 自治体の最高教育機関は、最低限、高校であるということを願っている。(行政、教育) 平成 22 年 3 月までの地域検討会議は消滅したのか。また、今回の懇談会との関連性はあるのか。(行政) 地元の高校生の地元への就職を支援しようという風潮が地域で高まっている。(行政) 高校は、郊外等、町から離れた場所にあり、バス料金等の経済的負担が大きい。再編等を考える際には、通学に便利な場所を考えて欲しい。(行政) 前回実施(平成 20 年)のアンケートについて、中学生の学科希望が高校の学科設定や定員に反映されていると感じる。震災後の動向を踏まえ、最新の調査をお願いしたいが、20 年のように 12 月ではなく、3 年生の 1 学期にやってほしい。(教育) 学級数調整について、ブロック内での調整は必要だろうが、ただ減らすだけではなく、人気のある学校について増やすことも考えてはどうか。(教育)
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> 「基本的方向」を策定した当時の状況と、現在とではどのように変わっているかが分かるようにして欲しい。(行政) これまでの高校再編により、新しい校舎が郊外につくられてきた。そのために公共交通機関が必要となるが、郊外は今、人口が減少している。再編や校舎をつくるということは、まちづくりとリンクすることなので、あわせて検討して欲しい。(行政) 会議、懇談会等で様々な課題・提案がされるが、それに対して取り組んだことの検証をしっかりと行って欲しい。(PTA) 岩手県はしっかりと地域の声を聞き、今後の対応策について協議をする場があり大事にしたい。地域の実情に応じた再編を検討するべきで、岩手型を大事にした再編案を策定していただきたい。(教育)
胆江	<ul style="list-style-type: none"> 少子化の進行は理解した。どんな再編を進めるにしても、家庭と地域が連携して生徒を育てていく高校であってほしい。(農林水産) 生徒が希望する部活動の指導者を地元の高校に配置してほしい。(農林水産) 今後の生徒数の減少を見ると、当地区だけのことではないことを理解した。ある程度の統廃合は避けられないと認識している。(商工) 高校の統廃合は地域経済に与える影響が大きいということを認識して再編を進めてほしい。(商工) 再編にあたっては、地域と合意形成を図りながら、検討を進めていただきたい。(商工) 再編については、大胆に進めていくことが必要。そのためにも、高校の在り方をしっかり議論していくことが必要である。(教育) 検討を進めるにあたり、大人の視点だけではなく、中学生や高校生、高校の卒業生等から意見を聞く機会もあって良いのではないかと。(教育)
両磐	<ul style="list-style-type: none"> 地域性として宮城県との交流(つながり)が深い。県の垣根を越えた高校の再編をどのように考えるのか。(行政) 学校の様々な事業について継続性が意外とない。学校経営上、継続性のある取組などをお願いしたい。(商工) 教員が率先して地域の歴史等を学び、子どもたちに教えて欲しい。(商工) 高校の行事が多すぎる。先生方が忙しくて、本来取り組むべき仕事ができなくなっているのではないかと。(商工) 県内すべての高校について、一律の基準で見直すのは違うのではないかと。学校に魅力があれば、遠くからでも生徒は入学するし、たとえ近くても、魅力がなければ入学しない。(商工) 中学生が高校を選ぶ際に、偏差値(成績)で選ぶのが当たり前になってきている。高校はもっと地域性を大切にすべきだ。(PTA) 宮城県でも高校再編が進んでいると聞く。その動向を見ながら岩手県の高校再編を進めてはどうか。(PTA) 将来、自分がやりたいことを見つけることが難しい。生徒が年度途中、あるいは学年が変わるときに、学科やコースを変更する等できるようにして欲しい。(PTA) ILCや平泉の世界遺産等、地域ならではの特色を前面に出して、それぞれの高校がそれぞれの役割を果たすことが大事ではないかと。(教育)

ブロック	意見等
気仙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化の問題が大きい。地元就職の魅力を高めることが、少子化への対策ともなると考える。(行政) ・ 学級減はやむを得ない。小さい町にとっては、学校そのものが大きい存在。県土の広い岩手県では、人間やまちづくりを考え、学校を残すべきと考える。(農林水産) ・ 魅力ある学校となれば生徒は集まってくる。保護者として現状の学校数で対応してもらいたい。(PTA)
釜石 遠野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の統廃合、学級減はさけられないことは理解するが、地域に対して丁寧に説明し進めて欲しい。(行政) ・ 平成の大合併により、市町村は大きく変わっているが、そのことに対する現状分析・認識が、「今後の高等学校教育の基本的方向」には示されていないし、理解されていない。(行政) ・ 再編によって、高校を集中化しながら拠点化をはかることは、時代の流れであるのでやむを得ない。(行政) ・ 教育委員会が、説得力のあるビジョン・シナリオを示すことが大事である。そこには、再編によって補わなければならない部分(情報通信ネットワーク、道路ネットワーク等)をどうするかということを示さなければならない。(行政) ・ 費用対効果の面からだけ物事を見ていいのか。教育ではあってはならないことである。経費の節減等、何かを削ってでも教育にはお金をかけなければならない。そのことを、記して欲しい。(行政) ・ 内陸との格差を十分認識していただきたい。生徒が減ることによって、教育現場、地域が苦しんでいる。中学で優秀で経済的に余裕のあるところは地域から出ていく。均衡のとれた教育が大事であって、地方の学校を切って、通いやすい、生徒が集まりやすい都市部に大規模校を集積させるのは逆である。(行政) ・ 統廃合について、学校の伝統を求めて入学する子どももいる。高校のネームバリューをあげることも必要である。(農林水産) ・ 高校は、その後の人生のことを考える一番いい時期である。地元にある学校から、子ども達ができるだけ選択できるように高校を残して欲しい。(PTA) ・ 再編について、地域住民の理解を得るには時間がかかる。来年、再来年とかではなく、時間をかけ丁寧に対応していかなければならない。(教育) ・ 地元で貢献したいという気持ちが高まっている。ブロック内の高校の維持と、身近で進路選択できる環境を整え、子ども達の夢を現実のものにするシステムを作っていただきたい。(教育) ・ 高校再編について、子ども達はどう思うだろうか。中学生に対して、高校の魅力をPRする機会(仕組み)をつくる必要がある。(教育)

ブロック	意見等
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの学力を一定以上に保つことが大切である。大学全入時代といわれるが、勉強しなくても入学できるようになっていないか。高校だけでなく、大学のありようも考えた高校の在り方を考えていく必要がある。(行政) ・ なぜ高校教育をするのか。どのようにして子ども達を育てていくのか。自分の生き方を決める大切な時期(高校)にどんなことを学ぶのか。子ども達が社会の中での自分の役割を勉強するためには、投資をしてでも、地域、大人が子どもの教育環境を整えるべきだ。(行政) ・ 能力のある生徒がその能力を伸ばすような教育、競争できる環境を大人が整えてあげべきであり、町として経済的な理由で進学できないことのないようバックアップしている。(行政) ・ 海外(ヨーロッパ)でも生徒数の減少が進んでいると聞く。岩手の再編の参考となるような事例はないのか。(行政) ・ 要望を聞くだけで終わってしまわないように。沿岸に、新たな高校を創設するなど、思い切った対策が必要ではないか。具体的もので議論していく必要がある。(教育) ・ 魅力ある学校づくりが必要。教育のシステムづくりとして町村も学校経営に参画、連携していく方法を考えることが必要である。(教育)
久慈	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員採用について、岩手県の採用が少ないため、県外に人材が流出しているのではないか。(行政) ・ 県立高校は何のためにあるのか。県立ならもっと入学者の門を広げてもいいのではないか。私立高校へ通学する生徒、保護者にとって様々な負担がある。実情に応じて、県立高校の門をもっと広げたり、就職に結びつく学科を作ってはどうか。(農林水産) ・ 水産業の従事者(組合員)がどんどん減っている。働く場所がないと地域の外に出て行く。(農林水産) ・ 定員を満たしていない学校の現状に対し、早めの対応が求められる。今後も、地域への丁寧な説明をお願いしたい。(商工) ・ 中学校は生徒数が減少し、部活動も維持できない。高校では、自分で選ぶという機会を残してあげたい。(PTA) ・ 生徒数の減少という現実はさげられない。しかし、それに押し出される形で今後の在り方を見直すのではなく、生徒の希望にいかに対応していけばいいかという視点が大切である。そういう学校をつくっていく契機にするという考えが必要である。(教育)
二戸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の範囲が広く、その中で高校は重要である。学級減等を行う場合は、地域事情を考慮し、地域に対して丁寧に説明願いたい。(行政) ・ 町内ではICTの利用に力を入れている。広大な面積の岩手では、ICT等を利用し、均衡ある教育を実践して欲しい。(行政) ・ H20 に小学部(石切所小)、H25 に中学部(福岡中)の分教室が設置された。特別支援学校高等部の設置、あるいは、小中高等部をあわせた独立校の設置も検討願いたい。(行政、PTA) ・ 統廃合をする前に、都市部の高校の学級減(5学級にする)を進めた上で、高校の統廃合を進めるべきと考える。(農林水産) ・ 公立高校と比較し、私立高校は先進的な取組をしていると感じる。そのことが生徒にとって学校の魅力となる。(商工) ・ 県立大学のサテライト校のようなものを県北に設置してほしい。(PTA) ・ 生徒数が少ないから教員の数も少ないではなく、何とか教員の配置が多くなるように配慮して欲しい。(PTA) ・ 「基本的方向の見直し」を行う意義は何か。(教育)